

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 1. 実践校について

実践校名	(ほっかいどうおとふけこうとうがっこう) 北海道音更高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	458	12	

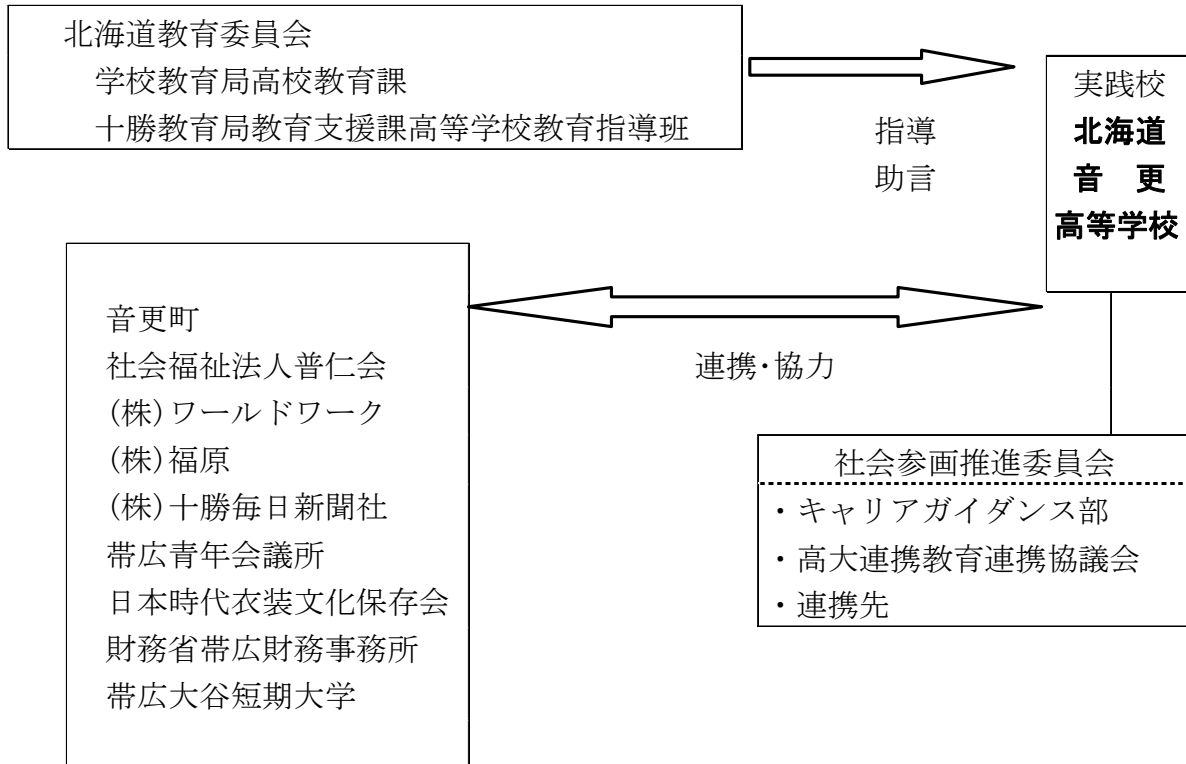
## 2. 実践研究の対象

全日制課程普通科 全年次 458 12学級

## 3. 実践研究の実施経過

月	政治的・経済的主体	法的・知的主体	福祉的主体
4月	校内研修（本年度の学習活動と各主体の整理）		
		携帯電話安全教室	
5月		きもの講座①	高齢者疑似体験
6月			
7月		生活安全講話(窃盗被害)	
8月		きもの講座②	認知症サポーター養成講座
9月		保育インターシッ <sup>°</sup> サポ <sup>°</sup> ト事業	介護インターシッ <sup>°</sup> サポ <sup>°</sup> ト事業
10月	インターシッ <sup>°</sup>	インターシッ <sup>°</sup>	インターシッ <sup>°</sup>
11月	未来創造授業	生活安全講話（薬物乱用防止・防犯）	
12月	議場見学 就職ガイダンス 先進校視察（広島県、石川県）	生活安全講話（刑法）	
1月		労働条件セミナー	
2月	校内研修会（先進校視察報告会）		
3月	課題探究型学習	課題探究型学習	課題探究型学習
	インターシッ <sup>°</sup> 報告会		

#### 4. 実践研究の実施体制



#### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

月	内 容
4月	北海道教育庁指導主事による研究の計画に係る指導・助言
9月	北海道教育庁指導主事による学校訪問
11月	北海道教育庁指導主事による研究の成果分析に係る指導・助言
1月	北海道教育庁指導主事による研究の報告に係る指導・助言

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：北海道音更高等学校（普通科）**概要**

- 現実の諸問題を捉え望ましい解決の在り方について主体的に考察させて、公正に判断する能力や健全な批判力などを3年間で育成する系統的・体系的な学習プログラムを開発する。

**学習プログラムの目標**

- 地域や社会人の人材を活用する中で、地域の課題や課題解決に向けて主体的に考え、具体的に行動する力を育成する。
- 自己実現を目指した「主体的な学習態度」「自己指導力」「健康で安全な生活習慣」を育成する。

**学習プログラムの主な内容****【各主体共通】**

- ① インターンシップ  
働くこと、生きることの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成するため、地元企業等の協力のもと、2年次生全員でインターンシップを実施する。
- ② インターンシップ報告会（3月実施予定）  
インターンシップについての報告会を実施し、成果を全生徒で共有する。

**【政治的・経済的主体】**

- ① 未来創造授業  
帯広青年会議所と連携し、様々な職種の方々を招き、話を聞いた後にグループワークを実施し、仕事のやりがいや苦勞について考えさせる。
- ② 議場見学  
町議会と連携し、2年次生対象に議会の様子を傍聴させ、主権者意識を高めるとともに、実社会の問題を身近な問題として捉えさせる。
- ③ 就職ガイダンス  
厚生労働省委託事業を活用し、2年次生を対象に働くことの動機付けを促し、仕事や社会を理解し、コミュニケーション力を高め、グループワークを通し自己理解を深め、望ましい自己表現の在り方について考えさせる。
- ④ 課題探求型学習（3月実施予定）  
財務省帯広財務事務所等と連携し、2年次生対象に国の財政についての基礎知識を高め、主権者意識を養成しながら、財政を持続可能なものにするためのグループディスカッションを行い、その結果を発表させる。

## 【法的・知的主体】

### ① 携帯電話安全教室

十勝毎日新聞社から講師を招き、ネットモラルを守ることやネットトラブルにあわないための啓発講話を実施する。

### ② きもの講座

日本時代衣装文化保存会から講師を招き、浴衣の着付けを生徒各自が実際に行うことと現代のマナーについて学習することで、立ち居振る舞いのTPOを身に付けさせる。

### ③ 生活安全講話（窃盗被害）

大手スーパーから講師を招き、万引き（窃盗）被害の状況など事業主側からの講話を通し、法令遵守について自覚させる。

### ④ 保育インターンシップサポート事業

高大連携先の帯広大谷短期大学と連携し、保育のインターンシップを行う生徒対象に保育についての基礎知識を高めるとともに園児達に接する上での心構え等についての事前学習とインターンシップ終了後の事後学習を実施する。

### ⑤ 生活安全講話（薬物乱用防止・防犯）

警察署から講師を招き、「薬物乱用」の実態と恐ろしさを知るとともに、自らが犯罪等に巻き込まれないように対応力を身に付けさせる。

### ⑥ 生活安全講話（刑法）

弁護士を講師に招き、昨今の犯罪についての講話を通し、犯罪と法令という視点から、具体的な責任について気付かせ、社会人になるにあたっての心構えを身に付けさせる。

### ⑦ 労働条件セミナー

労働基準関係法令等の知識の周知・啓発を図ることにより、就職後に自己の法定労働条件の確保や、疑問がある場合の対応方法等についての知識を身に付けさせる。

## 【福祉的主体】

### ① 高齢者疑似体験

社会福祉法人から外部講師を招き、車イスや体に重りをつけた高齢者の疑似体験をさせることで、高齢者を支える社会の役割を考えさせ、社会の一員としての自覚をもたせる。

### ② 認知症サポーター養成講座

音更町保健福祉部と連携し、1、3年次生を対象に認知症を理解し、認知症サポーターの重要性について学ばせる。

### ③ 介護インターンシップサポート事業

高大連携先の帯広大谷短期大学と連携し、介護のインターンシップを行う生徒対象に介護についての基礎知識を高めるとともに要介護者に接する上での心構え等についての事前学習とインターンシップ終了後の事後学習を実施する。

### **学習プログラムの成果の概要**

- 本研究指定事業において実践した体験的・協働的な学習における学習過程が、各教科等の授業にも活かされ、生徒の学習意欲の向上に繋がった。
- 本研究事業において実践した体験的・協働的な学習により、生徒の「地域への関心」・「国の抱える諸問題への関心」や「社会への参画意識」などの向上がみられた。
- 体験的・協働的な学習において、学習前の考え、学習中の考え、学習後の考えを1枚ポートフォリオを使って自己評価することで、生徒は自分の意識の変容に気付くことができた。

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

実践校名	(いわみざわしりつせいえんちゅうがっこう) 岩見沢市立清園中学校		
	学科名	生徒（児童）数	学級数
		174名	10学級 (特別支援4)

**2. 実践研究の対象**

実践研究は、社会科（歴史的分野・公民的分野）においては第3学年2学級55名、社会科（地理的分野）においては第2学年2学級60名、総合的な学習の時間においては第1学年2学級53名、第3学年2学級55名、特別活動においては全校生徒を対象に取り組む。

**3. 実践研究の実施経過**

- 平成29年5月、校内主権者教育推進委員会を立ち上げ、研究内容を共有した。
- 平成29年5月、全学年特別活動「奉仕活動（春の地域清掃）」を実施した。
- 平成29年9月、全学年特別活動「奉仕活動（秋の地域清掃）」「生徒会役員選挙」を実施した。
- 平成29年10月、第3学年社会科・総合的な学習の時間「選挙に関わるテーマ学習」、第3学年社会科「地方自治と住民参加（議会訪問と請願書作成）」を実施した。
- 平成29年12月、第3学年社会科「市選挙管理委員会による模擬投票」を実施した。
- 平成30年1月、全学年特別活動「奉仕活動（一人暮らし高齢者宅の除排雪作業）」を実施した。
- 平成30年3月、第2学年社会科（地理的分野）「日本の諸地域（身近な地域の調査）」を実施した。

**4. 実践研究の実施体制**

- 教頭、教務担当者、研修担当者、社会科担当教諭、学級担任で構成する校内主権者教育推進委員会を設置し、実践研究の推進のほか、学校と地域関係者との連絡調整を行った。

**5. 教育委員会等として取り組んだ内容**

- 市主権者教育推進委員会の運営及び市内小・中学校へ研究成果を還元した。
- 本実践研究の点検・評価、指導助言、経費予算の確認及び会計監査を行った。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：岩見沢市立清園中学校

### 概要

- 地域の特色を調査したり、地域の人たちと交流したりする活動を通じて、地域が抱える課題を把握し、魅力あるまちづくりに向けた具体的方策を考え、地域社会の形成や発展に参画する資質・能力を生徒に育む学習プログラムを開発する。

### 学習プログラムの目標

- ボランティア活動などの社会と関わる体験活動を通して、実感的に地域の実情を把握するとともに、自分との関わりの中で課題を設定し、課題解決する力を育む。
- 選挙に関わる体験活動や選挙の課題に関わる調査、発表活動を通して、地方自治への関心を高め、地域社会の形成に参画する態度を養う。
- 身近な地域の諸課題を取り上げ、調査を行うことを通して、地域に対する理解と関心を深め、地域の課題の解決策を見出し、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う。

### 学習プログラムの主な内容

- ① ボランティア活動  
地域の実態を把握し、地域が抱える課題を明確にするため、地域の清掃活動や独り暮らし高齢者宅の除排雪作業や交流を行う。
- ② 体験活動、調査・発表活動  
グループごとにまちづくりへの提言や請願書をまとめ、発表を行うとともに、議会訪問において岩見沢市議会事務局、選挙に関わるテーマ学習や模擬投票において市選挙管理委員会職員から意見をもらう。
- ③ 調査活動、創作・発表活動  
調査活動から市の地域的な課題を見出し、課題解決のための取組をキャッチコピーとして表し、発表する。

### 学習プログラムの成果の概要

- ボランティア活動で地域の方々や高齢者と交流したことにより、地域の実態や課題を把握することができ、地域社会への参画意欲や関心を高めることができた。
- 本プログラムの実施を通して、選挙や政治への関心、まちづくりに進んで参加し、意見を反映していこうとする意識を高めることができた。
- 生徒の実態を把握するためにアンケートの実施・分析を行ったことにより、学習プログラムの実施前後の変容を確かめることができた。